

安心な地域づくりを



高松幸雄 議員

教育部長

一斉下校には先生が下校指導をするが、今後はスクールガードや見守り隊に協力をお願いしていく。

質問

災害時、学校校舎屋上階への避難体制は。

教育部長

地震発生後の浸水や河川の氾濫などを想定し、学校では校舎の最上階へ逃げる避難訓練は実施している。学校施設は、安全対策上、児童・生徒の転落防止のため、簡単に屋上へは行けない構造になっている。また、屋上には配管などがあり危険な状態であるので、現時点では避難場所としての考えはない。

質問

市内には高層の建物が少ないため、地域住民から学校校舎屋上へ避難の要望がある。浸水や河川の氾濫など災害で、生きるか死ぬかの非常事態の場合はどうするか。

教育部長

生きるか死ぬかという状況の場合は当然、臨機応変な対応が必要だ。

高齢者の活動づくりを

質問

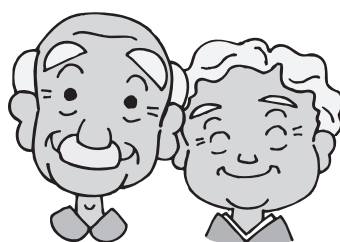
65歳以上の高齢者が社会参加や地域貢献になるボランティア活動をした場合に自治体からポイントが付与され、貯まったポイントに応じて商品との交換や介護保険料支払いなどに利用できる制度を導入しては。

福祉部長

介護支援ボランティア活動は高齢者が生きがいを持ち、介護予防、健康づくりを推進する重要な役割だ。今後は、他の自治体の状況を勉強しながら見極めていく。

その他の質問

実践的な避難訓練の導入を、介護予防対策について



質問

昨今、子どもや女性、高齢者が狙われる犯罪が多発している。日比野駅と永和駅に犯罪を防ぐ防犯カメラの設置が必要ではないか。

総務部長

日比野駅には寄附の申し出があったので設置をする。永和駅は看板などで注意喚起していく。

質問

津島市では町内会などで防犯カメラを設置する場合、市が一部補助する制度を始めた

が、愛西市でも導入しては。

総務部長

県内の自治体17市で補助制度があるが、補助率とか、補助の上限や維持管理費などの課題が多い。今後、他市の成果状況を参考に考えていく。

質問

小学校低学年の母親から、「通学途中に不審者が出没するので心配だ」と相談があった。低学年の通学にスクールガードや見守り隊が同行できないか。